

北海道庁立札幌高等女学校
北海道立札幌女子高等学校 同窓生の皆様へ
北海道札幌北高等学校

一般財団法人 庁立・北高会

運営資金確保のための支援金募集趣意書

北高同窓生の皆様におかれましては、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は、一般財団法人庁立・北高会および札幌北高等学校同窓会の活動に対し、温かいご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、当法人の**持続可能な運営体制を確立**し、将来にわたり同窓会の活動拠点である会館「ノースエイム」を維持していくため、同窓生の皆様に運営資金確保のためのご支援（寄付金）を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

当法人は、1956年に「財団法人札幌北高等学校同窓会」として設立されて以来、母校と地域社会への貢献を続けてまいりました。2011年に「一般財団法人庁立・北高会」へ移行認可されて以降、法人の存続に関わる重大な課題として「公益目的支出計画」を着実に進めております。

しかしながら、現在、法人の安定的な運営を脅かす危機的な状況に直面しており、その解決には同窓生の皆様のご協力が不可欠となっております。

1. 運営資金の危機的な現状について

当法人の運営資金は、近年、大規模な支出と減収により、急速に減少しています。

運営資金残額の推移

法人移行時（2011年）の運営資金残額は**38,372,862円**でしたが、大規模修繕費用（冷暖房機器交換、外壁・駐車場補修、給水・給湯管交換など）の発生に加え、特に近年の状況は深刻です。

- **2024年度末時点での運営資金残額は9,370,462円まで減少**しています。

- 移行後 1 年あたりの運営資金の減少額は、コロナ禍前までは約 155 万円でしたが、コロナ禍による減収が運営を直撃しました。
- **2020 年度は -4,564,058 円、2021 年度は -3,041,436 円、2022 年度は -2,908,580 円**と、コロナ禍の 3 年間で大幅な減収に見舞われました。

運営資金の安定的な確保は、「公益目的支出計画」を完遂させ、法人を永續させるための最重要課題となっています。

2. 公益目的支出計画の完遂と寄付金の決定的な役割

当法人の未来は、「公益目的支出計画」の完了にかかっています。

法人自治の確立に向けて

計画が完了すると、行政庁の監督が外れ、事業内容や残余財産の帰属が**法人自治**に委ねられることとなります。もし、この計画が完了する前に解散・清算することになれば、残余財産（北 18 条の会館「ノースエイム」の宅地・建物、南区北ノ沢の原野 4 筆など）は、類似の公益法人等や国・地方公共団体への帰属を強いられてしまいます。

この重要な計画の完遂に向け、2024 年度末の公益目的財産残額は **67,815,930 円**であり、当初計画よりも**約 2,550 万円前倒しで減少**しています。直近のペース（年間収支差額約 620 万円）を維持できれば、2035 年度中の完了が見込まれます。

寄付金が果たす役割

当法人が現在、最も力を入れている公益目的事業（施設貸与事業）は赤字となることで公益目的財産残額の減少ペースを上げていますが、それと同時に運営資金を確保しなければなりません。

皆様からの**寄付金は「非公益目的事業等」に分類**されます。この非公益目的事業等からの収入は、**公益目的財産残額に影響を与えません**。

したがって、同窓生の皆様からのご支援は、計画の進捗を妨げることなく、不足している運営資金を直接的に補填し、法人運営の基盤を安定させるために、極めて決定的な役割を果たすのです。

3. 支援のお願い

当法人が公益目的支出計画を確実に完了させ、法人自治のもとで同窓会の活動拠点である会館「ノースエイム」を守り、永続的な運営を続けるためには、運営資金の安定的な確保が急務です。

つきましては、法人の存続と将来の安定的な基盤確立という本趣旨にご理解とご賛同をいただき、寄付金によるご支援を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

記

事項	内容
資金使途	一般財団法人庁立・北高会の安定的かつ持続可能な運営体制を確立するための運営資金。
募集開始時期	令和8年5月より
お問い合わせ	一般財団法人 庁立・北高会 事務局

2026年5月吉日

北海道庁立札幌高等女学校
北海道立札幌女子高等学校
北海道札幌北高等学校

同窓会長 當瀬 規嗣